

3 - 4 イベント計画の検討

(1) 草原保全に向けた今後の課題

アンケート調査結果(3-2)及び実施イベントにおける意見(3-3)から、都市住民等との連携による草原保全を推進するために、今後取り組むべき課題として、以下のような点があげられる。

1) 都市部との連携による草原保全に向けた課題

草原の現状をより多くの人々に知ってもらい、保全活動へのあらゆる形での参加・協力を呼びかける

まず、都市部の人々に阿蘇の草原の素晴らしさとともに、維持・管理の現状を知ってもらい、草原問題の理解者を増やすことが第一である。

現状を知ってもらうための一つ的手段として、草原に直に触れられるとともに地域の人とも触れ合えるような形の利用の促進が考えられる。

都市住民との交流を通じた地域住民への草原の価値再認識の啓発

都市住民に実際に草原を体験してもらい交流活動を深めることを通じて、地元の人々が草原保全の重要性や自分たちの地域の現状やすばらしさを再認識するよう誘導していく。

2) レクリエーションやいやしの場としての活用に向けて

草原保全に向けて、都市住民の参加・協力の具体的な形をつくっていくために、可能なことから試行していくことが必要である。

アンケート結果では、草原での活動形態について観光客、牧野組合ともに「散策やハイキング」がトップにあげられ、意見交換会では「トレッキング」の場としての活用が提案されている。レクリエーションやいやしの場として草原を活用していくにあたっては、地域にも具体的なメリットが生まれるようなしくみづくり、草原に立ち入る際のルールの明確化が重要な前提となる。

(2) イベント計画

1) 考えられる合意形成イベントとその実施方法

阿蘇の草原保全に向けた牧野の開放、レクリエーションやいやしの場としての利用を具体化していくために、これまで行ってきたアンケート結果や会議での意見の踏まえ、草原を直接活用する3つのタイプのイベント実施を提案する。

野焼き・輪地切り支援ボランティアを対象とした開放

- 牧野組合が、ボランティア活動に対するお礼として牧野の一部を草原体験の場として開放し、相互の交流を深める。
- ある程度の保全意識を持った層の意識をさらに高めることで、これらの層が、活動の輪を今後さらに広げていく際の核としての役割を果たすことを期待するものである。

子供達の草原体験

- 地域内や阿蘇を水源とする6河川流域の子供達が、草原体験を通して阿蘇の草原について認識を深める。
- 次世代を担う地域内外の子供達の意識を高めることにより、活動の継続性を担保するものである。

草原トレッキング

- 参加者の草原保全活動への参加協力意識を高めるとともに、コースの検証、資源さがしなどにより質の高いトレッキングコースづくりを目指す。

次ページに3タイプのイベント計画(例)を示す。

2) 地域のメリットとなるしくみづくりとルールづくり

上記のようなイベント実施は一種の試行であり、回数を重ねることにより、実施のしくみやルールを精査し、定着させていくことがねらいである。

実施にあたっては、企画立案とともに実施・運営のしくみづくり、牧野への立ち入りに関するルールづくりを行い、参加者の感想や意見を反映してフィードバックしながら、実施内容の充実、しくみやルールの適正化を図っていく。

実施・運営のしくみ(例)

牧野組合、観光業者、行政など、関係者間で、草原開放の趣旨、役割分担、料金収受・配分等に関する契約締結

* 趣旨:

- 草原保全に結びつく活用であること
- 地域の活性化に寄与すること

* 実施に際しての関係者の役割分担

- 牧野組合: 活用メニューの準備、牧野内のガイド
- 地元観光業者: 牧野組合との契約のもと、参加呼びかけ、受入、参加者の管理、費用の精算等

- 行政：牧野組合と地元観光業者間の仲介、ガイドの養成、トイレなど必要な施設整備、情報発信などの支援

* 牧野利用料やガイド料などの料金収受・配分

参加費	ガイド料	組合員、その他のガイド
	牧野入場料	牧野組合
	事務手数料	仲介する観光業者やN G O

環境保全・草原保全に結びつくメニュー・ガイド内容

地元製品の販売促進に繋がるメニュー

牧野への立ち入りに関するルール

- 共通のルール（必要に応じて牧野組合毎のルールを付加）を作り、「(仮)草原手帳」などを配布することによりルールを徹底させる。
 - 放牧地は避けるなど、農業・畜産業への影響のない利用エリア、利用時期
 - 動植物採取、持ち帰りをしないなど、自然環境に負荷のかからないような利用形態
 - 牧野組合員に対するあいさつ、ゴミの持ち帰りなど利用者のマナーの徹底
 (仮)草原手帳については、例えば、草原利用者に草原手帳を販売し、その収入を地域に還元する、草原手帳を持つ人だけが草原に入れる、など手帳の保持に対して特典を与えるようなしくみをつくっていくことが考えられる。

図3-3 都市住民の理解促進のための草原活用イベント計画（例）

